

| | | | | | | | |
|---|--|--------------------|--------|----------------|---------------------|------|--------------------------|
| 科目ナンバリング | | U-LAS14 20007 LJ68 | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | 植物自然史 I Natural History of Plants I | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授 瀬戸口 浩彰 | | |
| 群 | 自然科学科目群 | | 分野(分類) | 生物学(各論) | | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | B群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義(対面授業科目) |
| 開講年度・ 開講期 | 2026・前期 | | 曜時限 | 火2 | | 配当学年 | 主として1・2回生 対象学生 全学向 |
| [授業の概要・目的] | | | | | | | |
| <p>「植物の系統と進化」「植物の基本的な形態」「環境と植物の関わり」の3点をテーマに設定して授業を進めます。</p> <p>「植物の系統と進化」では、日常触れることが多い「高等植物」だけを対象にして、高等植物の系統と進化を俯瞰して理解することを目標にします。「植物の基本的な形態」については、私たちの暮らしでも馴染みのある植物(イネ、サクラ類、イチゴ類、マメ類など)を対象にすることによって、実用的な学習内容とするとともに、履修者の関心が学習対象とつながるようにします。この際には、単に形態を羅列するのではなく、系統進化と結びつけて、多様な形を進化的・機能的意義から多面的に理解できるように説明します。「環境と植物の関わり」では、「発芽した場所から動くことが出来ない」生き物として、植物がどのように生き残り戦略を立てているのか、「光と開花を一例にして説明します。これには身近な植物：ダイズを使って、私の研究室と本学の農場で実験したデータを使って説明します。</p> <p>文理を問わず、一人でも多くの受講者に「植物はすごい」「植物学は面白い」「もっと学んでみたい」という動機付けをもたらすことが出来たら、教員として幸いです。</p> | | | | | | | |
| [到達目標] | | | | | | | |
| 「植物の系統と進化」「植物の基本的な形態」「環境と植物の相互作用」について知識と能力を習得する。 | | | | | | | |
| [授業計画と内容] | | | | | | | |
| フィードバックを含め全15回で、以下のような課題について、1課題あたり1~2回の授業を行う予定です。 | | | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 花と受精 重複受精の詳細・「ドングリ」における二年越しの受精 2. 高等植物の系統 分子系統で崩壊した紀元前からの分類「双子葉」と「単子葉」 3. 原始的被子植物について 何が「原始的なのか?」、分類と花の形態の多様性 4. 単子葉植物について 分類と花(イネ・ラン・アヤメ)の形態の多様性 5. 真正双子葉植物について 分類と花(バラ科、キク科、マメ科)の形態の多様性 6. 根と葉 7. 茎と維管束 8. 光や温度を信号として使うこと 開花や発芽を調節する仕組み、大豆の栽培にどのように活かされているか? | | | | | | | |
| ----- 植物自然史 I (2)へ続く ----- | | | | | | | |

植物自然史Ⅰ(2)

[履修要件]

スタート時点では高校における生物学の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、自学自習を求める。

[成績評価の方法・観点]

成績評価は定期末試験だけで行います(100%)。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

清水建美 『植物用語事典』(八坂書房) ISBN:4-89694-479-8

Evert, Eichhorn 『Raven Biology of Plants』(W H Freeman & Co) ISBN:978-1429219617(新しいEditionが出ています。世界の主要大学が使う教科書です。)

[授業外学修(予習・復習)等]

植物形態学について、以下のサイトを予習しておくことをお勧めします。

https://staff.fukuoka-edu.ac.jp/fukuhara/keitai_low/index.html

英語での学習を並行して進めたい人、綺麗な図版や写真で学びたい人には、以下の本を読み進めることを勧めます。頻繁に版が更新されるので、Webでチェックすると良いでしょう。欧米の大学で広く利用されている教科書です。

著書名: Raven Biology of Plants.

著者: R.F. Evert & S.E. Eichhorn

出版社: W.H. Freeman and Company Worth Publishers

日本語で植物の形態学について学びたい人には、以下の本をお勧めします。図と解説が併記されていて、正確さにも定評があります。

著者名: 図説 植物用語事典

著者: 清水建美

出版社: 八坂書房

ISBN: 4-89694-479-8

[その他(オフィスアワー等)]

個人の関心に合わせて、適切な参考書を紹介します。主体的に、教師に話しかけて下さい。メールではなく、毎週、教室で会った時に直接話しましょう。

オフィスアワー: 理系の教員なので毎日研究室で仕事をしています。オフィスアワーは限定していません。ただし、出張や会議で不在になることもあるので、事前に相談して下さい。

[主要授業科目(学部・学科名)]

総合人間学部、理学部